

発行所

社団法人 埼玉県電業協会
〒336-0031 さいたま市南区
鹿手袋4-1-7(建産連会館内)
TEL 048(864)0385
URL <http://www.saidenkyo.jp/>
E-Mail kyokai@saidenkyo.jp

彩さいのかがやきの耀

第160号
平成22年10月25日発行
発行人 荻野勝治
編集人 広報委員会
(委員長 町田浩征)
編集 日本工業経済新聞社
(埼玉建設新聞)

災害復旧講習会開く 関心度高く84人参加



荻野会長

9月14日、さいたま市南区の建産連研修センターで防災に関する知識をさらに高め、習得するための災害復旧対策講習会を開きました。

当協会では平成17年9月、埼玉県知事と「災害時における電気設備等の応急対策業務に関する協定」を締結。その後、関係19課所と細目協定を結び、同協会発行の「災害マニュアル」に従い非常時の電気設備復旧対策の体制作りに取り組み、更なる

強化を目指しています。

そこで今回は毎年のマニュアル変更に伴い、事故防止委員会が県消防防災課と同建築安全課から講師を招き、「埼玉県の防災対策」、「建築物の防災対策～震災時と平時の建築物安全対策～」の2題をテーマに開催しました。

講習会に先立ち、荻野会長は、講師を派遣してくれた県当局に感謝の言葉を述べ「54社・84人の参加者は当協会の防災・災害復旧について高い関心度の表れと思う。いつ来るか分からぬ災害にいつ襲って来ても対応できる体制作りを、本日の講習会でしっかりと勉強をして欲しい」と語り、続いて、県消防防災課の西成秀幸副課長は「平成17年に締結した貴協会との防災協定は、県にとって大変意義のあることです。行政だけでは対応できない事案について、電業協会皆さんの専門工事業の機動力と専門知識を、緊急時のライフライン復旧にご尽力頂きたい」とあいさつされました。

第1部講習会では「埼玉県の防災対策について」を、消防防災課の細野彰地震対策担当主査が講師を務め、過去埼玉県が被害を受けた地震による災害と今後起こりうる地震災害について、事例と予測で説明しました。

この中で細野講師は、被害を最小限に食い止めるためには「自助・共助・公助」が一体となった防災対策が重要と指摘。さらに、自助を促す取り組みについては県政出前講座の実施。共助を促す取り組みについては、地域防災サポート企業・事業所の登録促進。公助を高める取り組みについては、埼玉県震災対策行動計画の策定とともに、耐震化の推進を挙げていました。

第2部では「建築物の防災対策——」を、建築安全課の高頭秀和震災対策・構造指導担当主査が担当しました。

高頭主査は、震災時の安全対策として震前対策と震後対策。および平時の安全対策に絞って説明していました。

まず震前対策では、建築物の被害について30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率をシュミレーションし、その目標として①10年間で死者数を半減②地震による経済被害額を半減——としています。

また、震後対策としては応急危険度判定（主な地震での派遣実績）や、判定士の養成に取り組む、などとしている。さらに、平時の安全対策では、完成後の検査ならびに定期報告制度などを挙げ、両講師とも配布した資料を基にパワーポイントを使い詳細に説明されました。

第3部の「災害時の実働体制について」は、協会事務局からその内容が説明され講習会を終了しました。

総合評価も学ぶセミナー開催

8月25日、さいたま市南区の建産連研修センターで平成22年度経営者セミナーを開催しました。

今回のセミナーは企業対策委員会が主催したもので、I部の「改正労働基準法について」は、埼玉労働局労働基準部監督課の阿部恭之・労働時間設定改善指導官が担当。II部の総合評価をテーマでは「競争入札を勝ち続けるために」を、株式会社土木積算研究所の川越伸司氏が担当しました。

セミナーを前に荻野会長は「改善できる点は改善し、「会員でいて良かった」と言われる協会を目指し各種事業を充実し盛り上げていく。今回もその1つで、会場外のように熱気を持って受講していただきたい」とあいさつしました。

セミナーではまず、阿部指導官が「まだまだ暑い日が続くので熱中症対策に十分配慮して頂き、安全作業に心がけて下さい」と注意を促してから本論に入りました。

今回の改正主旨を「長時間労働の削減」と伝えてから、①改正労働基準法のポイント②「時間外労働の限度に関する基準」について、とともに③法定割増賃金率の引き上げについては、(1)月60時間を越える時間外労働に対する割増賃金率の引上げ(2)代替休暇(3)中小企業の猶予措置、に続いて④年次有給休暇の時間単位付与——について資料を基に説明しました。

質疑応答では、「我々現業は社外労働で時間把握が出来ない場合」の質問に対し、日報や日誌に記入するとともに、従

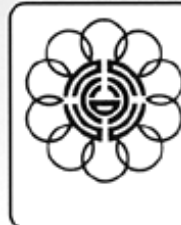
業員と経営者との信頼関係で解消する。また、「有給休暇の繰越期間」の質問に対しては、(有給休暇)発生してから2年間有効。と回答していました。

II部ではサブテーマを「埼玉県電気設備工事における最低制限価格の算出」と題し、「算出にあたり影響を受ける重要項目」の説明に引き続き、情報公開システムを活用した、行田県土整備事務所発注の公園施設整備工事（照明工）と、設備課発注の施設改修電気設備工事を例に上げ、配布した資料とパワーポイントを使って解説していました。



建産連センターで開かれた経営者セミナー

「彩の耀」に寄せて



市章

10箇の外輪は、合併した2町8カ村を表し、中央にカタカナの「マ」を4つ集めて「耀」の意味、中心は「彩」の文字を图案化したものです。
 図案は、町村合併後、市民の皆さんから募集したもので、町章として昭和30年1月10日制定。その後、市制施行とともに市章となりました。



市のシンボルマーク

このマークは、市民の皆さんとともに暮らしやすいまちづくりを進めるためのシンボルとして、全国公募の中から市民投票によって選ばれました。図案は、「水郷（しがや）」と、親子のシラフコバ（ト）が未来にはばたく様子を表現しています。
 (市制40周年を記念し、平成10年11月3日制定)

越谷市長

高橋 努

社団法人埼玉県電業協会の皆様におかれましては、日頃から電気工事に関する諸問題の調査研究を通して、電気設備産業の適正な運営と健全な発達を図ることにより、社会生活の安定と社会福祉の向上に多大なご尽力を賜り、心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

私は、昨年11月の市長選挙におきまして、多くの市民の皆様からのご支持をいただき、越谷市長として市政を担当させていただいております。ふるさと越谷で生まれ、育ち、そして越谷市に住み、47年余り、市職員、市議会議員、そして県議会議員として働いてまいりました。この間の越谷市の発展ぶりには目覚ましいものがあります。これもひとえに先人の皆様、そして市民の皆様のためまぬご努力と研鑽のたまものであり、この歩みを止めることなく、さらなる市政進展をはかることが市長としての私の責務と考えております。

そして、現在、次の二つを私の「越谷のまちづくり」に向けた基本理念とし、六つの基本政策を中心に市政運営に取り組んでおります。

まず、第一の基本理念は、「安心度埼玉No.1の越谷」です。私は、すべての市民の皆様が安心して、いきいきと生活できる地域社会をつくるのが大切であると考えております。生活重視の視点で、子育て、医療、介護、雇用などの不安をなくすための取り組みを積極的に進め、また、「安心度」という尺度をもって、さまざまな視点から行政を見つめ直すことも検討しております。

第二の基本理念は、「市民が誇れる越谷」です。「生活第一」を市政の最優先として取り組み、住みやすく、住み続けたいと実感できるまち越谷を創造し、埼玉県内はもとより、全国に越谷らしさを発信し、魅力的なふるさとづくりを進めております。

そして、「子育て支援のまちづくり」、「医療・介護の充実したまちづくり」、「教育・環境に優しいまちづくり」、「市民力を活かしたまちづくり」、「産業の振興と雇用を

増やすまちづくり」、「生活第一を目指したまちづくり」の六つの基本政策の実現に向けて、全力を傾注しております。

その一環として、今年の4月1日から、福祉に関する相談やサービス提供を円滑かつ的確に行うため、「福祉なんでも相談窓口」を市役所総合受付の隣に開設しました。また、子どもの健康増進と医療費負担の軽減を図るため、平成22年10月診療分から通院医療費の支給を、従来の小学校就学前から中学校修了までに拡大しております。さらに、7月下旬から8月にかけては、市民の皆様との相互理解を深め、協働のまちづくりをさらに進めるため、私が直接市民の皆様から市政に対するご意見やご提言をいただく「～なんでも話そう～市長とふれあいミーティング」を市内13の地区センターで開催しました。なお、この内容は、今後市のホームページで公表する予定です。

また、昨年、本市では、念願の「越谷市自治基本条例」を施行し、今年4月からは、条例の実効性の確保と適切な運用をはかるため、越谷市自治基本条例推進会議を発足いたしました。現在、この条例に基づき、市民の皆様を主人公とした「参加と協働」を原則とする「住みよい自治のまちづくり」を進めているところでございます。

私は、常に「行政は市民のため」との認識のもとに、全職員とこのことを共有し、一丸となって取り組むことが重要であると考えております。今後とも、住みよい自治のまちの実現にむけて、自治基本条例や総合振興計画に基づき、さまざまな施策を進めてまいりますので、皆様により一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、社団法人埼玉県電業協会のますますのご発展と会員皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、あいさついたします。

第1回技術講習会

実践総合評価を学ぶ 講習会に100人参加



今年度第1回目の技術講習会を7月6日に開催しました。今回は「総合評価の施工計画書の作り方」が主題で、リコージャパン株式会社関東営業本部埼玉支社が後援、クロズテック株式会社（東松山市）の黒岡茂雄氏が講師を務めました。

講習会に先立ち今回企画した技術委員会の小林弥寿弘委員長は、「総合評価も、企業に対するものと技術者に対するものと大きく分かれている。と同時にいろいろなタイプも取り入れられている。今回の講習では本音部分まで鋭く突いているので、今後増える総合評価方式入札に適切に対応してほしい」とあいさつしました。

講習は午後2時前から始まり、公共事業費と建設業界

の現状に触れてから①総合評価落札方式②総合評価の問題点③簡易型における評価項目の現状④施工計画書とは⑤技術提案書とは⑥提案コスト⑦対策の注意点⑧文章の書き方——など32項目におよび、2時間の予定時間をオーバーして行なわれました。



予定時間をオーバーして開かれた講習会
(中央はあいさつする小林技術委員長)

三県連絡会議

三県ワーキング会議結果報告から 協会の進むべき方向性を提議！

埼玉・神奈川・千葉の各県電業協会の代表者による三県連絡会議が去る7月26日（月）に東京電業会館会議室にて開催されました。

議事としては、昨年5月の(春季)三県連絡会議において設立することを決定した三県の若手理事を中心としたワーキンググループの会議結果を中心に討議されました。このワーキング会議の趣旨は、電気工事業をめぐる事業環境の急速な悪化や品確法の制定に伴う入札契約制度の変化など、また、公益法人制度改革に伴い社会における協会の設立目的のとらえ方など「協会の進むべき方向性」の提示が求められていることにより、その方向性を三県で考えていこうという内容です。

検討結果について、ワーキング座長の山口氏（神奈川県電業協会副会長）より、「近年の社会情勢を踏まえ公益法人として設立した際の協会目的を再確認し、今後とも協会事業は会員一社ではできない事業を重点にスケールメリットを生かした共益事業を進めていこう。」とまとめられ、主な事業の提案がされました。

この検討結果を各県へ持ち帰り、時期事業へ反映させていくことで意見の一致をみ、会議を終了いたしました。



熱く討議が繰り広げられた三県連絡会議

安全大会

熱中症対策を万全に 無災害誓う安全大会開く



60人以上が参加した安全大会

6月25日、平成22年度安全大会を、建産連研修センターで開催しました。

この大会は、「過去1年間の無事故・無災害に感謝するとともに、向こう1年間の無災害達成を祈願するため」同協会事故防止対策委員会が企画したもので、安全へのヒントが講師の方々から伝えられました。

大会に先立ち荻野会長はあいさつで、「本日の大会は、8月1日からの全国安全週間を迎えるにあたり、安全の意識と知識を高めるための大会です。本日の訓示ならびに安全講話を今日一日だけのものにしないで、(参加者が)各企業に持ち帰り社員や協力会員に伝えることが事故を未然に防ぐ最大の要因です」と述べるとともに、「これから夏本番を迎え熱中症が最大の敵となる。水分補給

や適度の休憩を挟み無理をせず、くれぐれも気をつけてゼロ災害を達成しよう」と熱中症対策にも万全の体制を築くよう要請しました。

大会はまず、安全訓示で埼玉労働局の真壁秀夫安全衛生課長が建設業の労働災害発生状況について、①死亡災害の推移(全国)②平成21年死亡災害の状況③県内の典型的墜落災害事例——などを説明しました。

次に安全講話では、「危険行動と災害防止について」と題し、安全・安心マネジメントサービスの白石勝美氏が講師を務めました。

この中で白石講師は、「事故災害を防止するために」では人間の行動を理解してコントロールすることを挙げ、そのための対策として①危険を理解させる②ルールを作る、の2点を今後各社が取り入れるよう促しました。

そして最後に古小高事故防止対策委員長を先頭に、安全スローガン『みんなで進めようリスクアセスメント めざそう職場の安全・安心』を参加者全員で唱和し、向こう1年間の無事故・無災害を誓い閉会となりました。

人材育成サイト『Saidenkyo Career Value』開設!!

人材育成委員会 委員：大塚 徹（大塚電設株式会社）

平成22年7月「埼玉県電業協会 人材育成サイト『Saidenkyo Career Value』」を開設しました。

内容としては、電気設備業界のイメージを理解し易い様に「電気設備とは」を始めとして、仕事の流れや施工実績、先輩紹介の掲載、企業が求める人物像や会員企業の「求人企業一覧」等、情報盛り沢山で紹介しております。

ここに至るまでの道のりは長いものでした。既設の常設委員会から若き精鋭達を集め、川合委員長のもと“人材育成委員会”が発足したのは、平成20年度のことです。人材育成サイト開設の構想は、第1回委員会（平成20年12月4日開催）から始まりました。どの業界も高齢化が進む中、いかに若い優秀な人材を確保し、育成していくかは大きな課題であり、これをどう克服していくか。この業界を若者に理解してもらうには、どのようにアプローチをしていくか。そんなことから、情報サイトの作成を決めました。ほどなくワーキンググループを立ち上げ、内容やネーミング、予算など、約1年半の間、月1回のペースで検討を重ねながら、やっと公開

に漕ぎ着けました。

自分自身は、就職活動をする事もなく、現在に至っているため、就活の苦労は解りません。しかし、もし、一から電気設備業界を調べ、就職先を探すならこんなサイトがあると便利だ。という思いで作成に加わっております。内容としては、まだまだ物足りない部分も多いかとは思いますが、皆様のお声もいただきながら、これからも改良を加え、充実させていきたいと思っております。

これから就職を希望する学生や若者達に、電気設備業界へ目を向けていただき、業界がどういうところか、何を学ぶべきか、生涯熱意を持って仕事出来る職業であることを、「Saidenkyo Career Value」で知ってもらい、就職先の選択肢に加えてもらえれば嬉しい限りです。また、会員企業の皆様にもこのサイトを積極的に活用して、より良い人材の獲得に役立てていただけることを願っております。

(アドレス→<http://www.saidenkyo.jp/jinzai>)

**Saidenkyo
Career Value**
埼玉県電業協会 人材育成サイト

積算をとりまく世の中の動き

株式会社公共土木積算研究所

社会情勢の変化の中で、公共事業を取り巻く環境は大きく変化してきており、積算や契約のプロセスにおいても、透明性、客観性、妥当性の向上が強く求められている。

「積算とは何か」を考えた時、まず一番に思い浮かべることは、工事の発注時に行われる請負工事費（もしくは予定価格）を算出する行為ではなからうか。

そこで、ここでは、「公正、公平」、「コスト」、「品質」の三つの視点に着目してみる。

① 「公正、公平」性の確保

国内的・国際的環境の変化を受けて、諸制度の改革が進められているが、その基本的な考え方は、入札・契約手続きを透明性、客観性、競争性の高いものに改革することである。このような背景を積算に照らした場合、「発注者から見ても請負者から見てもわかりやすい積算」、「工事目的が明確に理解できる積算」の構築が強く求められることとなる。

② 「コスト」の縮減

コスト縮減のためには、発注者、請負者、資材供給業者等の公共工事に関わる関係者が、それぞれの立場で継続的な努力を行っていくことが必要である。しかし、例えば工事請負者がコスト縮減の検討を行おうとした場合、発注者がどのような規格寸法の目的物をどのような品質で求めているのかが明確でなければ、具体的な検討を行うことは難しい。

また、仕様書に記されているものよりも実際にはより良質なものを期待する慣習も見られ、これを避けるためにも積算・契約図書をより明確化することが必要である。

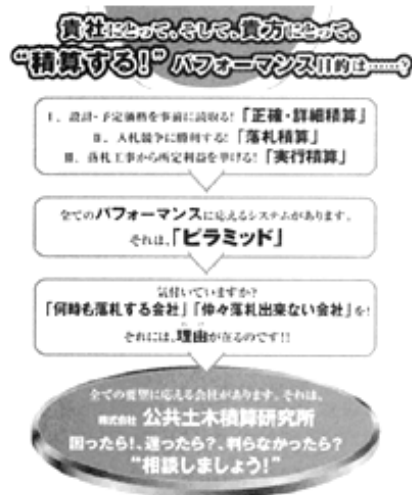
③ 「品質」の確保

「公正、公平」性の確保による競争性の向上、「コスト」縮減の努力は、その方向性を誤ると「品質」の低下につながる恐れもある。例えば、過度な品質を追求すればコスト増加につながり、行き過ぎた価格競争は品質の低下を招く可能性が高い。

これら3つの目標のバランスを保ちながら公共工事を推進していくことが重要である。

そして、これらの目標の両立を実現していくためには、「積算・契約」業務を発注者、請負者両方から見て分かりやすく、理解しやすいものにしていくことが非常に重要であり、必要条件である。

公共工事を落札するためには、発注者の考え方を正確に理解し、「正確な積算」を行い、根拠のある、応札をすることである。



株式会社 公共土木積算研究所

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-18

本社:TEL 03-3863-5511

ホームページ <http://www.kdslab.jp/>

協会だより
西部支部

『相馬野馬追い祭り』を観て

西部支部長／相馬電業(株) 代表取締役 古小高取

このたび、岡島西部支部長の後任として支部長に選任されました。微力ではありますが、支部会員全員で“和”をもって各活動を盛り上げていきたいと思っております。

話は変わりますが、先日、福島県の南相馬市に「相馬野馬追い祭り（そうまのまおいまつり）」を観に行ってきました。（相馬市は当社の初代社長の出身地であり、社名の所縁の地です。）

この祭りは、一千余年の昔、相馬氏の始祖平将門が下総国（千葉県流山付近）に野馬を放ち、敵兵に見立てて軍事訓練をしたのが起こりと伝えられています。毎年7月23～25日の3日間に亘り開催され、五百余騎の騎馬武者が、甲冑を身にまとい、腰に太刀、背に旗差物をつけて疾走する姿は勇壮な戦国絵巻物そのものです。初日は出陣式が行われ、中村、太田、小高神社で杯を上げ、祭場の雲雀ヶ原へと出陣します。ここでの見物は、総大将のお迎えで“伝達の儀”が行われるところです。しかし、一番の見どころは2日目です。3kmにわたる騎馬武者行列が祭場へ入場するや否や、ほらや陣太鼓が鳴り響き、それを合図に約1kmのコー

スを旗差し物を背に人馬一体となって疾走する“甲冑競馬”が行われる様は圧巻です。さらに、その後、数百騎の騎馬武者が集結し、号砲一発天高く舞い上がった御神旗を取り合う神旗争奪戦は、合戦さながらの迫力があります。最終日は、野馬追い古来の姿を現在に残すもので、放たれた野馬を神社に追い集め、白装束の御小人が素手で神馬を捕え奉納する神事が行われ、終祭となります。

皆さんも是非一度、戦国時代にタイムスリップしたかのようなこのお祭りを体験しに、足を運ばれてはいかがでしょうか。

時代は変われど、古き良きものはその地に於いて脈々と受け継がれています。地域の活動が“礎”となり今に至っております。支部活動も同様に、諸先輩方が守られてきたものを受け継ぎ、又、新しい物を取り入れ、より良い支部活動を行いたいと思います。



人気の源は、実力はもちろん、人柄から…

国益電設工事(株) 代表取締役 町田浩征

Voice

以前は休日になると子供たちを自転車の前後に乗せ、浦和Redsの練習を見に大原練習場へ行った。さいたまスタジアム2002などの試合観戦と違い、極めて近い距離で選手たちを見ることができ、時折行われる練習試合なども無料で観戦できる。遠方から見学に来るサポーターも多く、ここで知り合いになり、連絡を取り合って交流を深めている人もかなりいるようだ。

見学以外にファンサービスも訪れる楽しみの一つである。練習後の選手たちや監督が、ファンと一緒に写真を撮ったり、握手をしたり、サインをしてくれたりする。我が家の子供たちも、もちろん、サインをもらったり、一緒に写真を撮ってもらったりして、ますますRedsが好きになり、応援にも熱が入る。阿部勇樹が千葉からRedsに移籍した年、子供たちと一緒に撮った写真を年賀状に使わせてもらったことがある。そのため、日本代表選手でも、我が家では“阿部ちゃん”呼ばわりである。

そんな練習やファンサービスの場面を見ていると、選手たちの人柄が垣間見えるときがある。大人には無愛想だが、子供たちにはめっちゃくちゃ優しい關莉王。意外にファン思いなオジェック（元）監督。愛想が悪い田中達也、山田暢久。お茶目でカッコイイ小野信二、永井雄一郎。イメージそのままの岡野雅

行などなど…（すべて個人的な印象です）。中でも深く印象に残っているのが、鈴木啓太だ。ファンサービスとはいえ、ファン数は半端ではない。多くの選手は、何かをきっかけにファンサービスを途中で打ち切る。ある時、鈴木選手がサービスに応じている途中で携帯電話が鳴り、その場を離れ、話を始めた。しばらくして、これでサービスは終わりとみんなが諦めかけたとき、「どこまでサイン終わりましたっけ？」と電話を終えた鈴木選手は戻ってきて、またサインを延々と行った。待っている人たちが一巡し終わると、手を振り帰って行った。練習で疲れているだろうに、この時は本当に感心した。

前述の選手たちの多くは、今ではRedsを離れ、他のチームで活躍をしている。他のチームに移っても、人柄を思うと、ついついその選手を応援してしまう。反感を買うかもしれないが、チームの人気の源は、実力はもちろん、選手の人柄によるところも多いと感じる。

常々、魅力ある人気のある会社づくりを目標にしている私には、この事を重ね、社員全員の実力を高めるだけでなく、働く社員の人柄を魅力あるものにしていかなければと思う。

現在、低迷しているRedsだが、是非とも強いRedsに返り咲き、個性の強い、魅力のある選手がこれ以上Redsを離れ、チームカラーが損なわれないことを期待したい。

協会のうごき

7月

- 6日 第1回技術講習会
- 7日 役員会
- 16日 人材育成委員会
- 20日 第1回常任理事会
- 26日 春季三県連絡会議【神奈川県当番】
- 28日 事故防止対策委員会

8月

- 23日 人材育成委員会
- 25日 経営者セミナー
- 31日 技術研究委員会

9月

- 1日 設備関連三団体連絡会議
- 8日 「管線工事の総合評価審判方式」の説明会
- 14日 1級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会実施コース1/3

- 災害復旧対策講習会
- 17日 広報委員会／人材育成委員会
- 21日 第6回理事会
1級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会実施コース2/3
- 28日 1級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会実施コース3/3

10月

- 9日 荒川・下水道フェスタ
- 19日 第2回常任理事会
- 21日 企業対策セミナー
- 30-31日 平成22年度登録電気工事基幹技能者認定講習会【2日間】

11月

- 11日 平成22年度中間監査
- 16日 第3回常任理事会
- 24日 三県連絡会議【千葉県当番】



前原前国交大臣より建設業の発展に尽力したとして表彰された佐野名誉会長

(社) 埼玉県電業協会会員

支部長◎ 副支部長○

さいたま支部 (15社)

- 旭電気工業株(大宮区)
- 浦和電気工事株(南区)
- 大塚電設株(浦和区)
- 株岡村電機(緑区)
- 国益電設工事株(南区)
- ◎埼玉電設株(中央区)

(さいたま市)

- 三洋電設株(南区)
- 新生電気工事株(見沼区)
- 竹内電気株(岩槻区)
- 株積田電業社(浦和区)
- 中村電設工業株(見沼区)
- 浜野電設株(北区)
- 株万代電気工業(桜区)
- 瑞穂電設株(北区)
- 株八洲電業社(北区)

東部支部 (10社)

- 株内田電気商会(久喜市)
- 株大久保電気(越谷市)
- 株三進電気工事(上尾市)
- 島村電業株(上尾市)
- 株新電気(三郷市)
- ◎株大広電気(八潮市)
- 大洋電設工業株(越谷市)
- 株高岡電気工業(松伏町)
- 野口電気工事株(越谷市)
- 株弓木電設社(白岡町)

西部支部 (17社)

- 株新井電機(飯能市)
- 飯島電器工事株(川越市)
- 株市之瀬電設(志木市)
- 株岡島電気商会(川越市)
- 株おぎでん(川越市)
- 熊田電気工事株(狭山市)
- 株三共電気商会(和光市)
- 株関根電気商会(川越市)
- ◎相馬電業株(和光市)
- 株電成社(川越市)
- 橋電株(所沢市)
- 株橋本電工(所沢市)
- 浜田電機株(坂戸市)
- フジヤ電気工事株(川越市)
- 株松本電機(和光市)
- 株明電社(川越市)
- 株ヤマト・イズミテクノス(ふじみ野市)

- 三位電気株(川口市)
- 高山電設工業株(川口市)
- 株田部井電気(鳩ヶ谷市)
- 釣谷電機株(川口市)
- 那須電機工業株(川口市)
- 領家電設株(川口市)

北部支部 (16社)

- イーテクノス株(熊谷市)
- 株エコー(深谷市)
- 岡根電気工事株(本庄市)
- 小沢電気工事株(行田市)
- 共和電機株(秩父市)
- ◎熊谷電機株(熊谷市)
- 株栗原電機(深谷市)
- 霜田電気株(皆野市)
- 中外電気工業株(深谷市)
- 株東電工業社(熊谷市)
- 株長井電機(熊谷市)
- 株沼尻電気工事(深谷市)
- 株早川電工(行田市)
- 松山電設株(東松山市)
- ムサシ電機工業株(行田市)
- 株羅進電気(深谷市)

南部支部 (11社)

- 内山電設株(川口市)
- ◎株奥富電気工事(川口市)
- 川島電気株(川口市)
- 株佐久間電設(川口市)
- 佐野電機株(川口市)



雇用・能力開発機構では、雇用管理に関する事業を行っており、公的資格取得や能力開発のための各種事業及び助成金を行っていますので、お気軽に協会窓口まで、ご相談下さい。

独立行政法人 雇用・能力開発機構埼玉センター

〈雇用開発業務〉

良好な雇用機会の創出と雇用環境の改善を図るため、新分野進出の支援をはじめ雇用管理全般の相談・情報提供等を行うほか関連の助成金支給や勤労者の財産形成促進等を業務としています。

〈能力開発業務〉

離職者のための機動的な委託訓練コースや在職者に対する能力開発セミナーなど職業訓練を実施するとともにキャリア形成に関する相談・情報提供、助成金支給等を業務としています。

◆電話 048-882-4164【建設労働・財形担当】

◆所在地 〒336-0931 さいたま市緑区原山2-18-8

◆FAX 048-882-4166